

2007年度には到来と言われていた「大学全入時代」は、景気回復で大学進学志向が高まったため、現役志願率は58.8%、浪人を含めた進学率は53.7%と、推計を上回る進学率となり、772,000人の志願者に対して、入学者は698,000人となり、持ち越しとなった。しかし、大学進学率の上昇に伴う志願者の増加分は、国公立大学ではなく私立大学に流れているにもかかわらず、私立大学の内、定員割れしている大学は約40%、短大は62%に上っており、学生を集められる大学と集められない大学の二極化が一層促進されている。

このような状況下において、2007年度に実施する2008年度本学入試は、「選抜機能が働いている大学」の位置を保持すべく、2006年度に目標として達成した「選抜試験出願数50,000人」を引き続き目標とし、支持基盤のある近畿地区戦略と、知名度の低い地方戦略とに区分し募集活動を行った。

1) 入学試験制度

本学の主な選抜入試は、11月実施の公募推薦入試、1月実施の一般入試A日程、2月実施の一般入試B日程、3月実施の一般入試C日程、1月募集のセンター試験利用入試〔前期募集〕、2月募集のセンター試験利用入試〔後期募集〕である。

「公募推薦入試」、「一般入試」は、2005年度に、入試方式の多様化や併願制度の柔軟化など、大幅な入試制度改革を行った。また、2006年度は、一般入試C日程を導入した。

改革3年目の2007年度は、大学入試センター試験受験者数が増加傾向にあることから、センター試験利用入試〔前期募集〕の充実をはかった。具体的には、センター試験利用入試の志願者増と国公立志望者層の取り込みを目指し、募集人員を148名から264名へと大幅に増加するとともに、試験科目を一部変更し、また入学試験成績上位者に2年間の授業料相当額を給付する「アカデミック・スカラーシップ制度」を新設した。

2) 学生募集結果

選抜試験の志願数50,000人を目標としたが、結果は49,868人となり目標を達成できなかった。また、対前年比では95.8%にとどまり、入試形態別にみると、公募推薦入試の対前年比は106.0%、一般入試の対前年比は90.5%、センター試験利用入試の対前年比は110.0%であった。一般入試においては、A日程、B日程、C日程のすべてにおいて、志願数を減らすこととなった。

2007年度に充実をはかったセンター試験利用入試〔前期募集〕においては、対前年比が115.7%となり、出願数増加の目的は果たした。「アカデミック・スカラーシップ制度」対象者となる入学試験成績上位者の入学は4名であり、一定の成果を得たと言える。

3) 入学志願者募集活動

受験生やその保護者との重要な接触機会であるオープンキャンパスにおいては、深草学舎で4日間、瀬田学舎で2日間を開催、合計11,679名の参加者（昨年10,617名）があった。また、公募推薦入試、

一般入試A・B日程及び一般入試C日程の各入試の直前に実施している「龍谷大学入試対策講座」についても内容を大幅に改編し、受験生ニーズに即した運営に努め、出願の促進をはかった。全国各地で開催される「進学相談会」へは、入試アドバイザーの協力のもと113会場へ参加し、課長職位者による有力高校への訪問活動についても継続して実施、併せて各学部教職員による出張模擬講義も行い、大学の総力をあげて学生募集に取り組んだ。